

子ども・子育て支援新制度を学ぶ

待機児童解消は小規模保育に期待 子どもの居場所づくり今後課題



氏 武 博 ひろ ざと 神 かみ

子ども・子育て支援制度とは

子ども・子育て支援制度は3つの目標から成ります。

- ① 質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供
- ② 保育の量的拡大・確保
- ③ 地域の子ども・子育て支援の充実

待機児童の解消に向けて

町の待機児童は年々増加し、特に0〜2歳が多い傾向です。

町は小規模保育施設の設置を進めています。乳幼児の受け皿として期待が持てます。しかし、小規模保育は19人以下で2歳までとなります。3歳からの保育確保など課題は残ります。

4月から町立幼稚園の4歳児受け入れ等が始まります。議会にも保育ニーズに応えるさらなる調査が求められます。

はじめに
平成27年度に子ども・子育て支援新制度が始まりました。議会も待機児童の解消など新制度を取り巻く問題を喫緊の課題と認識しています。
2月3日にかみざとと社会福祉研究所長の神里博武氏を講師に招きました。支援制度の内容や南風原町の現状と課題を学ぶため議員研修会を開催しました。

居場所として児童館活用を

児童の放課後居場所づくりとして児童館の活用があります。

本町には児童館が小学校区ごとに設置されています。しかし、児童館から遠い地域の児童の居場所づくりに課題があります。

研修では児童館から遠い地域への出前児童館が提案されました。放課後教室と学童クラブなどの連携も大きな役割を担ってくるのが分かりました。



議員全員で保育を取りまく現状と課題を確認しました

こんな質問をしました

問 認可外保育園が小規模保育へ移行する場合、3〜5歳児の受け入れはどうするか。

答 小規模保育へ移行を進めると同時に、3〜5歳児の受け皿となる保育園や幼稚園、認定こども園を整備する必要がある。

問 認定こども園の設置に向けて課題は何か。

答 認定こども園の職員は幼稚園教諭と保育士資格の両方が必要となる。人材確保が懸念される。用地確保も課題となる。

問 出前児童館はどのようなものか。

答 ボランティアと児童館の職員が協力し実施される。週1回程度に各字の公民館等を利用する。地域とのふれあいや異年齢交流ができる事業である。しかし、毎日の事業実施は難しく、課題はある。各地域にあった環境づくりが必要となる。